

市民
登場

今月は早起き野球大会や小・中学校の野球大会などの審判員を十四年も努めている佐藤さんにインタビューしました。

審判で野球の面白さ再発見

始めたきつかけは：
子供のころから野球はやっていました。残念ながら正しいルールは覚えなかったんです。十五年前にチームを作って、いろいろな大会に出場するようになってから、ルールに関する知識の無さを痛感しました。それでルールブックを読んだり、審判員の講習会を受けたりして基礎から勉強したんです。ルールがよく分かってくるにつれて、選手とは別の野球の面白さを見つけたんですよ。



「クロスプレーは興奮しますよ」と佐藤さん

審判員は中立の立場で試合を見ている公認審判員は、現在十九人しかいません。豊栄市は他の市町村に比べると審判員の数は少ないです。野球の好きな若い人たちから、審判員の仕事にもっと関心を持ってもらいたいですね。今年の早起き野球大会には六つの班に分かれて、交替で審判をしています。当番の日は朝の五時前に起きて、試合開始の十五分前には野球場に着くようにしています。

心掛けていることは：
判定は大きな声で、スピードイヤーにするようにしています。また、小・中学生の試合の審判をする時には、正しいルールを指導することにも心掛けています。アマチュアですら、好きだからやめられませんね。

公認審判員の人数は：
全日本軟式野球連盟から認定さ

早起き野球大会でベスト4へ勝ち進んだことのある佐藤さんは、まだ現役選手として、壮年野球大会にも出場しているとのことでした。

会長に安達八兵衛さんを再選

自治会長連合会総会

昭和六十二年度の自治会長連合会の総会が、五月二十五日中央公民館で開かれ、会長に安達八兵衛さん(樋ノ内)が再選されました。また、副会長には本間重蔵さん(須戸)、高橋惣一郎さん(尾山)、渡辺孝衛さん(浦木)、高橋辰治さん(長戸呂)が選ばれました。

土門健次さん(県営第四)、阿部嘉雄さん(県営第六)、高橋幸治さん(大瀬柳)、石山利一さん(里飯野)、曾我昭悦さん(長場)、岩野七太さん(秋葉通)、森岡善一さん(川前)



総会で選ばれた新役員。左端が安達会長

リレー
随想
No.10

山田 昇 (59歳)
(大瀬柳・農業)



趣味の将棋に生きる

昨年、三十数年間務めた岡方農協を退職し、毎日をどのように過ごそうかと思悩んだこともあった。しかし、家族が「永い間難儀したんだから、自分の好きなことをすればいい」と言ってくれて、本心に喜んでる。

多く、年を取ってくると家族が心配するし、パチンコや競馬は金がかかる。そこで、前から好きだった将棋を指すようになった。これなら新聞や雑誌の詰将棋やテレビの将棋番組を見ながら、一人でも十分楽しめる。今更上達しようとは思わないから趣味、道楽として指している、いや暇つぶし

将棋を昔の武將は嫌ったという説がある。それは味方の駒も敵に取られると敵になるからであろう。将棋を通じて多くの親友、友人ができ、人の和も生まれる。また、自分が知らなかった社会情勢を知ることもある。対局の後、あの時はあの手があつた、この手もあつたなどと時がたつのも忘れて批評、研究するものとても楽しいものである。私もこうして「ヘボ」から早く脱出するように頑張っている。

かもしれない。将棋は考えて指すところには深く無限の指し手が広がる。その中から一手の妙手を選ぶのだが、それが成功するか致命傷となつて敗れるかにつながるのである。私の場合は後者が多いようである。

軍鶏闘技大会で初優勝

鳥屋の豊友会チーム

先月、西蒲原郡の吉田町で開かれた、第二十三回新潟市近郷軍鶏闘技大会で、鳥屋の豊友会チームが見事に初優勝を飾りました。



優勝旗やトロフィーを手にして大喜びのメンバー

この大会は、軍鶏保存会が主催して毎年行われているもので、今回は新潟市や亀田町などから二十チームが出場しました。競技はオス五羽が一チームの団体戦で、試合は抽選で決められたチームと一回だけ戦います。その試合の勝敗数と勝負のついた時間によって、順位が決まります。一羽ずつの対戦時間は一時間で、飛び上がってくちばしを使い相手の首や背をつつき、どちらかが逃げるまで戦います。時には血を流しながら戦い続けて、制限時間内に勝負がつかないこともあります。豊友会チームは五羽とも時間内に勝利を納める完全優勝でした。

みんなで作ろうきれいなまちを



やめよう!犬の放し飼い
散歩中に
フンをしたら
あとしまつを
しまししよう

市住みよい郷土建設協会が、地域の環境美化を広く市民に呼びかけようと、空き缶などの投げ捨て防止と犬の放し飼いやフンの後始末を呼びかける立看板を作りました。これは、カン害、フン害を無くし、きれいなまちにしましょうというものです。この立看板は無料で、希望する自治会には市の保健環境課へ申し込んでください。

南極の石を市に寄贈

海上自衛隊員の坂井進さん

砕氷艦「しらせ」に乗って、南極観測の物資輸送に初参加した内沼の坂井進さん(三四歳)が、珍しい南極の石を市にプレゼントしました。



甲板までヘリコプターでつり上げた石と坂井さん

この石は南極大陸の昭和基地近くのオングル島から採ってきたもので、表面が強風でえぐられた蜂の巣状の穴がいくつもあり、また、赤紫色で粒状のガネット(ザクロ石)がちりばめたようになっています。数億年前にできたと推定される南極の石は、日本ではめつたに見られない貴重なもので、博物館のロビーに飾ってあります。